

通摩高校 P T A 広報

Yurinoki



百合樹

第 19 号

平成 25 年 10 月 1 日
島根県立通摩高等学校 P T A

ユリノキ

本校が明治 36 年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木である。創立 100 周年の記念樹としても採用された。

P T A 会長挨拶

瓜坂 秀史



平素より P T A 活動にご理解のうえ、積極的にご参加いただいておりますことに感謝申し上げます。

また、この度の豪雨災害により被災された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、今年の中国四国地区高等学校 P T A 連合大会は松江市で開催されました。大会の前段では島根大学教育学部初等教育開発講座講師の香川奈緒美さんから「聴く力の種」〜家庭内のコミュニケーションを考える〜と題して講演がありました。香川先生はこの講演の中で「コミュニケーションで最も大事なのは『聴く』ということだ」としました。「聞く」ではなく「聴く」ということです。この違いは「聴く」ということは「理解する」ということだそうです。聴くことの目的として一つは「目的達成」ということで、もう一つは「人間関係の形成」ということを挙げられました。家庭内でのコミュニケーションにおいて私たちは親が大切にしなければいけないのは後者の方で、いかに子供の話を理解し共感してあげられるかということだそうです。そこで具体的に注意しなければいけないのは「話の途中で割り込まない」ということです。しかし、誰もとかく割り込みたくなるもので、その理由として「会話をコントロールしたい」「注目されたい」「何を言おうとしているかわかっていると思うから」「相手の話を手伝っているつもり」「話を早く切り上げたい」ということを挙げられました。先生は「割り込みをしないために、相手の話が途切

れた時は『三秒間だけ待つ』ということを心がけましょう」と言われました。

皆さんもこの「割り込み」について思い当たる節があるのではないのでしょうか。斯く言う私も子供との進路の話で、子供の言うことを頭ごなしに否定をして「もういい!」と言われ逃げられてしまうことがあります。講演の中で先生が言っておられたのは、「こういう時にはまず『そうだね』というふうに相手に『共感してくれている』と思ってくれるような態度を示すことが大事だ」ということでした。

今回の講演を通じて感じたことは、とにかく子供を押さえつけてしまいがちですが、子供の心を理解して、その上で子供の進むべき将来について一緒に考えていくべきだということです。

校長挨拶

山岡 雄一郎



平素より保護者の皆様方には本校の教育活動に對して、ご支援、協力をいただき誠にありがとうございます。

夏休みは、猛暑とゲリラ豪雨に悩まされましたが、生徒諸君は、補習や部活動、あるいはアルバイトにそれぞれ一生懸命取り組みました。八月後半からは、三年生を中心に体育祭の準備に取り組み、悪天候に悩まされながらも、全学年が一体となって若い力を十分に発揮し、心に残る体育祭を成功させることができました。そして今、三年生は就職に進学に、自分の夢の実現を目指して頑張っています。

す。

四月から本校に赴任して六か月が経ちました。生徒諸君の明るい笑顔と、授業や実習、部活動に真剣に取り組む姿に、私自身が励まされる毎日です。この好ましい姿勢は、生徒のみならず素直な資質や教職員の熱心な指導にもありますが、本校独特の「総合学科」というシステムによるところが大きいように思います。

本校では、一年生の前期に「産業社会と人間」という科目を週四時間設けて、仕事の内容や自分の適性をじっくり考えさせます。座学だけでなく、事業所や上級学校へ訪問見学を行ったり、働いている方を学校にお招きして直接話を聞いたりします。そのうえで、自分に適した系列を選択し、後期の授業を組んでいきます。農業、ビジネス、生活、文化、福祉の五系列に数多くの選択科目が用意されており、実習もたくさんあります。自分のやりたい科目が選べることで、そのほとんどが少人数授業であることなどが、その後の生徒の主体的な学習につながっていくようです。

学校としても、このような総合学科の魅力を広報やホームページを通じてどんどん発信していきます。保護者の皆様にも本校の特色をご理解いただき、さらなるご支援、協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



満開のサツキと仁心の庭

(5月)

一年生 保護者の声

PTA理事 田中 真由美

我が家の息子、娘は、遷摩高校で高校生活をスタートさせました。総合学科ということ、たくさんの決断をする時があると思います。

なかなか家の子供は、将来のことを考えても定まらず悩んでいる姿を目にしてみました。親としていいアドバイスもできず見守るだけでした。本人の決断は、学校の先生方、親、友人等に相談し、自分の夢を追いながら将来への道を開いてほしいと思います。

PTA監事 石原 千郷

始めまして皆さん。今年、創立百十周年という年に、娘が入学出来た事、何かの縁と思います。宜しくお願いします。

娘は中学時代からデザイナーになりたくて、私と幾度も進路の議論をしてきました。その度に私が言う台詞は『デザイナーも経理が出来なければ只の趣味だね。生きていく(生計)事が出来なければ、社会人として認められないだよ。先ずは基礎を学びなさい。』と、私に勧められ、ヤル気満々(部活も)で入学したはずですが、本人の持つて生まれた笑顔と根性で頑張つて欲しいですね。

これは私の欲ですが、ついでに遷摩高校に新しい風を吹き込んでくれれば善いなと思っています。

「入学をおえて」

PTA評議員 横田 文子

一年ぶりの遷摩高。長女は希望校へ進学で

きありがとうございました。この度、長男が入学、お世話になります。男の子なので姉たちに比べるとあまり手を掛けず、私自身、姉妹なので男子の心理が? 試行錯誤の日々です。でもできるだけ関わって過ごせて行けたらと思っています。

長女の時も遷摩高は進路について一年生から先生方が親身になって下さるのでとても心強く有り難く思っています。

この三年間、頑張つて欲しいです。

教職員の声

「JINSHIN」

教務部長 松田 哉

本校の伝統精神は「勤労・創造・仁心」であるが、この中に「仁心」という言葉を採用した理由が気になった。本校の所在地の仁万に由来するものと推測した。この夏、色々調べてみたがその真偽はわからなかった。しかし、その過程でいくつ興味深いことを発見した。仁万という地名は平安時代からこの地域を表す地名として書物に見られ、「にま」の表記は仁満・仁麻・仁摩・仁間など様々であるが、いずれにしても「仁」の字が古くから使用されていた。この「仁」という言葉の意味は何か。大辞林によれば、愛情を他におよぼすこと、いつくしみ、おもひやりのことである。と定義されているが、その解釈はこれまでも多くの人々を悩ませてきた。論語の中では最高の徳として説明されているが、はっきりとその定義がなされておらず、孔子以降、多くの儒家や学者たちがその説明を試みている。色々調べたが、私自身どうも納得がいかず、

様々考えているうち、本校の「仁心」を目標としてどう定義するのかを私自身で決めればいいのだと思い至った。そこで私がたどり着いた現在の答えは、「誰かのために何かしたいという気持ち」である。そう考えると、他の二つの言葉「勤労・創造」と連続的に意味がつながってくる。

「目的」

進路指導部長 大野 真由子

人生の目的って何でしょう。最近そのことを考え、「幸せになること」ではないかと思いました。しかし、この「幸せ」を定義するのはとても難しいです。なぜなら、何が幸せかは人によって違っているからです。私にとって幸せに思えることが、他の人にとっての幸せではない可能性もあります。

毎年そうであるように、今年度の三年生も自分のこれから決めることにとても悩みました。中には希望がかなわず、方向転換をした人もいましたし、自分に自信が持てず踏み出せない人もいました。悩んで、それでも結論がなかなか見いだせない人に共通するのは「とてもまじめで一生懸命である」ことではないでしょうか。悩む姿を見て、若い人に特有な「一途」な様子に、遠くなった自分の青春時代をちらりと思ひ出ししました。うらやましく、いじらしい姿です。しかし、本人にとっては苦しいことでしょう。

私からのアドバイスです。自分の選んだ職業や職場が生きがいとなるのはすばらしいことです。が、仕事は自分の「生きがい」や「幸せ」を得るための手段であっても良いのです。一〇〇%を求めると苦しいです。妥協せよと

は言いませんが、ちよつと自信があることや、ちよつと好きなことから考えてみてほしいのではないかと思います。さあ、どうやって幸せになりましょうか?

「か行の訓」

一年学年主任 白澤 和朋

もう二十年近く前になると思いますが、ある講習会に参加した時、講師の先生が話された訓を今も心に留めています。私自身それを日々実践しているとは言えませんが、何かに取り組む際にはこの訓を思い浮かべながら取り組んでいます。今回はその訓を紹介したいと思います。「か行の訓」。「か・考える。

一方からではなく、色々な角度から考える。「き・記録する。忘れることは必ずある。それを補うために記録しておく。」「く・工夫する。自分なりに工夫する。」「け・健康第一。何をやるにも最大の資本は健康である。

「こ・行動する。どんなよい考えでもそれを実行しなければ実は結ばない。この五つの訓は、言われてみれば当たり前のことであり簡単なことでもあります。が、つい疎かにしてしまいがちなことでもあります。また実践しようとする中で、受け身的な立場から自発的な立場で取り組むことができるようになります。その結果、今までとは違った結果が見えてくると思います。五つすべてをすぐに実践することはなかなか難しいことだと思います。まずは、自分にとって実践しやすいと思う一つから始めてみてはどうでしょうか。



「凡事徹底」

二年学年主任 萬治 正

今夏の高校野球は、春夏連覇に挑む浦和学院や夏連覇のかかった大阪桐蔭などの強豪校が力を発揮できずに次々と敗れていく中、前橋育英(群馬)の初出場・初優勝という偉業で幕を閉じました。前橋育英は「凡事徹底」という言葉を掲げ、小さなことを積み重ねて強くなってきたチームだったようです。グラウンドでは全力疾走やカバリング。日常生活においては、身なり・挨拶や時間厳守、掃除を重んじ、人間性を高めてきたとのこと。それが、大舞台でも落ち着いて自分の力を出すことにつながっていき、この度の偉業につながったと思います。また、準優勝した延岡学園(宮崎)も日々の積み重ねを重視するチームで、野球の練習だけではなく、日常生活・学校生活で自身を律し、挨拶やゴミ拾いなどの当たり前のことを当たり前に繰り返してきたそうです。人間性を高めることに重きをおいてきたという似通ったチーム同士による決勝戦。観る者に甲子園に吹く浜風のような爽やかな印象を与えたのは、両チームの選手たちや指導者の方々の人間性によるものだったと思います。生徒の皆さんも日ごろから「凡事徹底」を意識して「当たり前のことを当たり前にできる」ようにし、人間性を高めることが将来の目標(進路・部活など)達成のための近道だと思います。さあ生徒の皆さん、まず「元氣な挨拶」「清潔感のある身なり」「心の行き届いた掃除」から徹底しましょう。

高P連中四国大会参加報告

総務部長 奥野 和浩

七月十二日(金)島根県民会館において「縁を結び 絆を育む」〜P.T.Aから広がる輪だんだん〜をテーマに開催されました。

研究協議では「地域おこしとP.T.A」と題した隠岐島前高校P.T.Aの発表が注目を集めました。町を挙げての存続への取り組みは本校においても参考になる事柄が多くパワーをいただいで帰校しました。



会場で特に目を引いたのは会場入口付近でした。農業・水産・商業高校の生産物販売は来場者に大人気ですという間に完売していました。また昼食時には松江市立女子高による観光甲子園プランのビデオ上映、出農太鼓部による七兵衛太鼓、大社高ダンス同好会によるパフォーマンス、浜商郷土芸能部による石見神楽と高校生が立派にアトラクションを披露しました。「おもてなし」の心がこもった高校生の対応に感激された来場者が多かったと思われます。



体育祭分団長コメント

「赤軍優勝しやうい!!」

赤軍 三年一組 福井 力

こんにちには!! 赤軍分団長をやらせていただいた福井力です。僕は最初に自分でもこの分団長という仕事ができるか不安でした。ですが、そんな僕を同じ三年一組のみんなが支えてくれて、どうにか赤軍の「一」年生を引っ張ってまとめることができました。そんな三の「一」のみんなにお礼を言わせてください。「こんな頼りない団長を最後まで支えてくれてありがとうございました。」そして、一、二年生!! 気に食わないこともあったと思うけど、最後まで文句を言わずについてきてくれて本当にありがとう。最後はやっぱり日高先生!! 最後まで心配をお掛けして申し訳ありませんでした。体育祭のことを一番に考えてくださり本当にありがとうございました。僕は「一、二、三の「一」のみんなが赤軍で本当に良かったです。このメンバーだからこそ優勝することができました。『本当にありがとう。赤軍のみんなが大好きです。』

「体育祭を振り返って」

紫軍 三年二組 山本 聖也

今年の体育祭は百周年記念体育祭でした。不安など色々な気持ちの中で、無事体育祭を終えることができました。しかし、不安だった僕をみんなはサポートしてくれて、とても楽しませてくれました。一、二年生にダンスを教える時は全員のダンスを揃えるように教え方を工夫しましたが、最初のあたりはみんながバラバラで全然合わなくて心配しました。しかし本番は紫軍が一つになって練習以上のダンスが出来て良かったです。今回の体育祭を通じて紫軍だけでなく瀬摩高校全体の絆がより一層深まったと思います。最後にこの百周年記念体育祭の総括責任者になれて誇りに思います。ありがとうございました。

「完全青覇」

青軍 三年三組 内藤 幸太

どうも、青軍分団長の内藤幸太です。夏休みから準備を始め、暑い中本番に向けて一人ひとりが協力し合い頑張りました。雨で延期が続く、なかなか体育祭が出来なかったけれど五日が晴れて無事に体育祭が出来て嬉しかったです。結果は総合二位でしたが、自分が青軍分団長を務めることが出来て本当に良かったです。みんな頼りない僕についてきてくれてありがとう!! 青軍のみんな!! I LOVE YOU!! 青軍のこと忘れないでいてくれるかな? いいとも!!

祝 創立百周年記念体育祭

総務部長 奥野和浩

保護者参加競技として実施した「瀬摩高〇×クイズ」、お楽しみいただけましたでしょうか。真の瀬摩高王として四名の方が認定されました。ご参加いただいた保護者の皆さま有難うございました。



走れ! 叫べ! 燃えろ!!
～団結・協力こそ最大の武器となる～

写真でつづる前期の出来事

◆四月

○入学式

総合学科十九期入学生となる七四名の新入生が、遷摩高校の門をくぐりました。入学生代表の山路大亮君は元氣よく宣誓を行いました。

○創立百十周年記念植樹式

テニスコート横に二本、プール跡地に九本、計十一本の桜を植樹しました。今後は本校と共に成長してくれることでしょう。

○遠足

今年度も一年生は松江フォードパーク、二年生は阿佐動物公園、三年生は水木しげるロードへ出かけました。晴天に恵まれ、良い一日となりました。

◆五月

○高校総体

五月下旬の総体に向け、運動部の生徒は猛練習を行います。卓球部、ソフトテニス部の指導には校長も加わっています。

○人権同和教育講演会

「高校生向けデパートDV防止講座」と題し、講演をしていただきました。生徒代表二名もロールプレイ実演に臨み、迫真の演技で会場を沸かせました。

○仁万の浜清掃

毎年恒例の浜清掃。生徒会や部活動を中心に多数の生徒が参加しました。本格的な海水浴シーズンに前にも、ごみの無い美しい浜となりました。

◆九月

○百十周年記念体育祭

「走れ！叫べ！燃えろ！！」と団結・協力こそ最大の武器となる！！」をスローガンに、体育祭が行われました。今年は天候に悩まされ、開催延期が続きましたが、当日は良い体育祭日和となりました。全校生徒参加の長縄跳び、応援にも熱が入る分団別リレー、新競技の赤紫青眉の乱(騎馬戦)、各分団趣向を凝らした応援合戦等、大変に盛り上がりました。猛暑の中夏休みから準備に取り組んだ生徒会、三年生の皆さん、お疲れ様でした。

◆七月

○校内球技大会

クラス毎にバレーボール・ソフトボールの二種目で競い合いました。今年度は体育祭の分団対抗戦も兼ねており、学年を超えて白熱した試合が展開されました。

◆八月

○オープンキャンパス

市内外の中学校から約一三〇名の生徒が来校されました。本校生の指導の下、模擬授業・実習・部活動見学などを体験されました。

